

第 4 章 : 地域の課題整理

1. 本町が有する関連計画

1) 津野町 第Ⅱ期まちづくり計画 (平成 27 年度 ~ 36 年度)

前期基本計画 (平成 27 年度 ~ 31 年度)

「津野町 第Ⅱ期まちづくり計画 前期基本計画」は、基本構想で定めた将来像や基本目標等に基づき、推進する主要施策を示すものであり、まちづくり計画の前期 5 年間を対象としている。

～ 融合から飛躍へ ～

風とともに地域きらめく協働のまち

(風：人材・子ども・自然・文化・情報・地域資源)

「協働による地域課題の解決」に取り組むことで、本町の将来像である「風とともに地域きらめく協働のまち」を実現しようとしている。

本計画の中において直接的な表現により「公共交通」や「移動手段の確保」については述べられてはいないものの、移動の目的づくりやインフラの確保、移動制約者に対する支援などにつながる項目が立てられている。

1 章：思いやりと協働のまちづくり

(2) 住民自治の育成と支援 (集落活動、自治組織、集落環境)

「① 複数の集落が一体となった集落活動の推進」、「② 様々な人々がまちづくりに参加できる体制の整備」、「④ 地域づくり事業への支援」

3 章：自然と調和するまちづくり

(10) 交通安全の推進

4 章：健康で笑顔あふれるまちづくり

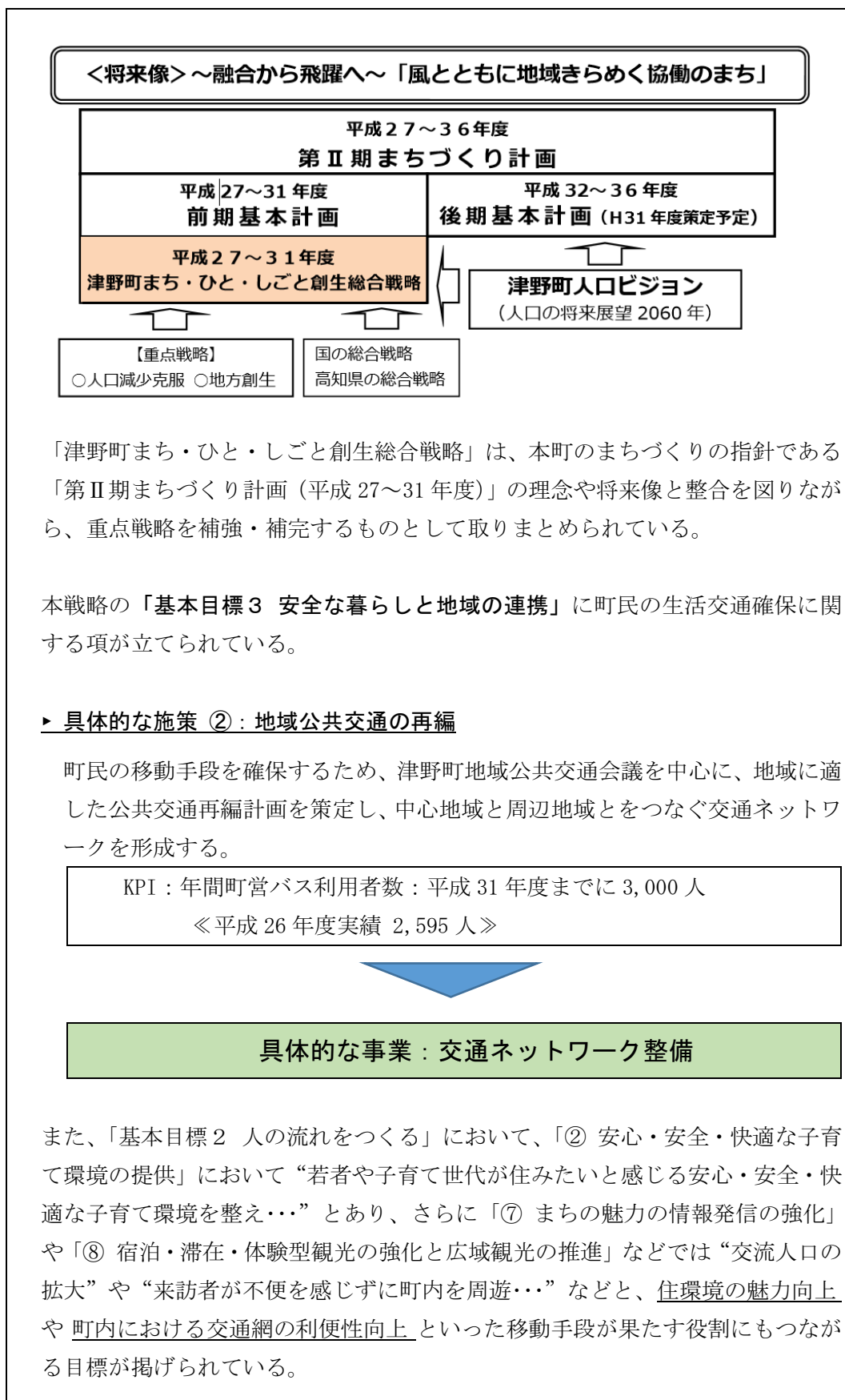
(4) 高齢者福祉の充実

「③ 支え合いの地域づくりを支援するために、社会福祉協議会をはじめとする関係機関との連携強化」、「④ 地域サロンなどでの介護予防、健康づくりの取り組みの充実、推進」

(5) 障がい者福祉の充実

「② 障がい者が安心できる居場所づくりを支援」、「③ 障がい者が仕事ができる環境づくりを支援」

2) 津野町まち・ひと・しごと創生総合戦略 (平成 27 年 12 月)




2. 移動手段確保の視点における考察からの整理

第1章～第3章までの現況調査の考察より、地域の交通に関する問題点を集約する。


第1章：地域の現況より

- ① 人口減少が加速している
- ② 人口減少と合わせて高齢化が進行している
- ③ 公共交通空白地区が多数存在している
- ④ 同じ地区にも関わらずかなりの高低差が生じている
- ⑤ 通勤や通学で町外に出る人が多い
- ⑥ 徒歩圏内に買い物の場がない地区が多い

 問題点として集約	<ul style="list-style-type: none">○ 人々のつながりによる集落機能の低下 人々のつながりで維持されてきた集落機能であるが、人口減少と高齢化の進行により、今後は低下していくことが懸念される。○ 移動制約者の増加と公共交通空白地区が多数存在 地形的な制約もあり、谷間の集落に暮らすためには独自の移動手段を持つ必要があり、移動手段を持たなくなると生活の維持が難しくなる。○ ヒト・コト・モノの流出 仕事場や学校、買い物の場といった人が集まる施設が町内に少ないため、人が集まる活動や取り組み、お金などが町外に流出していることが懸念される。
---	--

第2章：公共交通の現況より

- ① 公共交通空白地区が点在している
- ② 町営バスの一般利用者数が少ない
- ③ 布施ヶ坂バイパスの新道と旧道に移動ニーズが分散している
- ④ 須崎市方面と梶原町方面に移動ニーズが分散している
- ⑤ 町営バスと高知高陵交通の路線バスがネットワーク化されていない
- ⑥ コミュニティバスの試験運行利用者が少ない
- ⑦ 来訪者への移動手段に関する情報提供が弱い



問題点として集約

○ 公共交通利用の低迷

高知高陵交通や町営バス、新しく試験運行を行っているコミュニティバスなど、公共交通の利用者が全般的に少なく、路線網維持の点からも将来が懸念される。

○ 使いづらい公共交通網


高知高陵交通の路線バスと町営バスがダイヤ連携できていない便があることや、高知高陵交通の一部の便が布施ヶ坂旧道を経由することなどから、利用者にとって利便性の高い路線バス網となっていない。

○ 脆弱な情報発信

路線図と時刻表の一体化した情報発信がなされていないため、土地勘のない人には使いづらいものとなっている。地元利用のための情報発信も十分とは言えない状況となっている。

第3章：生活交通に対する意識より

- ① 独居の高齢者が多くなっている
- ② 地区によって路線バス（高知高陵交通）に対する意識に差がある
- ③ 移動手段の確保が困難な高齢者が今後増加する
- ④ 路線バスのことがあまり知られていない
- ⑤ コミュニティバスの運行と地区のニーズが合致していない部分がある
- ⑥ 公共交通網に対する不満への対応が求められる



問題点として集約

○ 公共交通に対する認識に差

住まいの地区や家族構成、所持する移動手段などから、公共交通に対する認識に差が生じており、多様なアプローチが必要となる。

○ 住民の期待に応えられない公共交通網

「家からバス停が遠い」、「乗り換えたくても待ち時間が長い」といった理由から、路線バスが移動手段として認識されず、利用者が期待する利便性を果たせていないことがうかがえる。

○ 将来に対する不安の拡大

独居高齢者の増加、地域のつながりの低下などから、助け合いすらできない集落が増加し、近い将来の生活の維持に対する不安が拡大している。

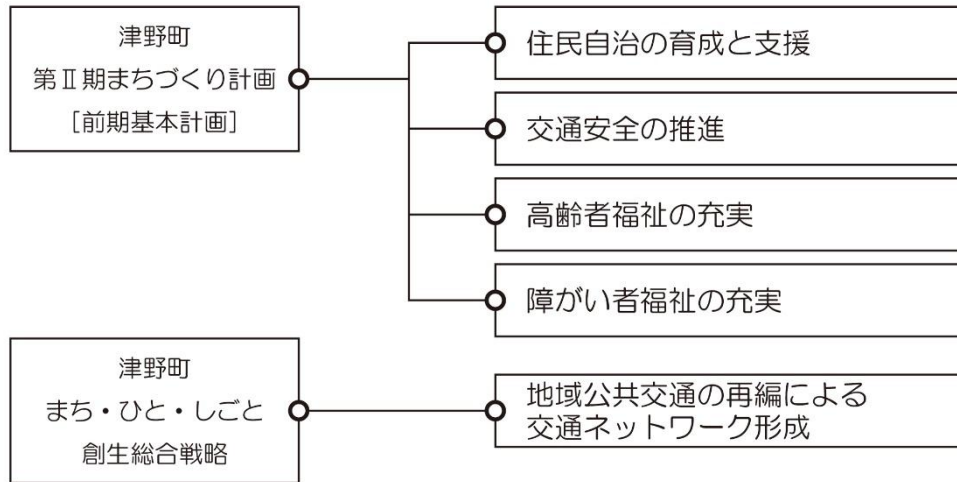
○ 移動制約者の増加

近い将来、独自の移動手段を持たない移動制約者の数は増加する。

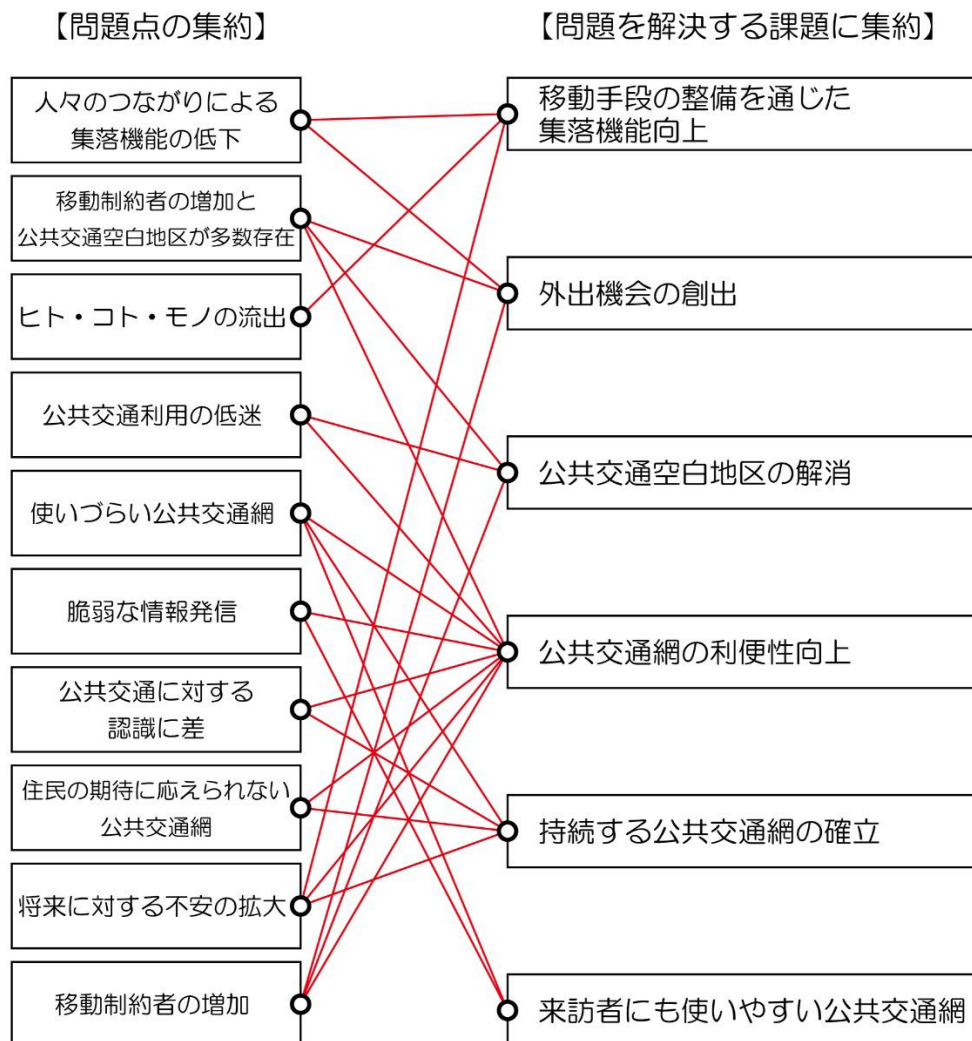
3. 課題の整理

本町の関連計画及び地域が抱える問題点を整理し、問題点を解決するために今後解決すべき課題として整理する。

－ 関連計画より －



－ 問題点の集約より －



－ 津野町が解決すべき課題 －

⇒ 課題① 移動手段の整備を通じた集落機能の向上

わざわざ国道まで出なくても利用できる移動手段を整備・拡充し、隣近所の助け合い（共助）の範囲を拡大する。

⇒ 課題② 外出機会の創出

高齢者や障がい者が、様々な外出の機会（移動の目的）を得て、いつまでも健康的に生きがいをもって生活できる環境づくりにつなげる。

⇒ 課題③ 公共交通空白地区の解消

現在、試験運行中のコミュニティバスを活用し、町内の公共交通空白地区の解消につなげる。現状では、定時定路線型による運行としているが、利用状況や地区の要望を把握した上で、区域運行など他の運行形態を織り交ぜながら地域の移動ニーズに合致した移動手段の確保につなげる。

⇒ 課題④ 公共交通網の利便性向上

高知高陵交通の路線バスを町内及び町外と結ぶ幹線と位置づけ、この幹線に町内のさらに郊外部とをつなぐ支線的な移動手段を確保する。この幹線と支線を路線、ダイヤ、運賃、サービス、情報、そして安全で快適に乗り換えられる結節点でつなぐこととする。

これにより、町外に用事がある人も、町内で用事が完結する人も、既存及び新設する公共交通網を活用することが可能となる。

⇒ 課題⑤ 持続する公共交通網の確立

公共交通網を持続させることについて、運行事業者に頼るだけでなく、行政や町民も意識を持ち、実際に行動することが求められる。

公共交通利用に対して意識を持っていなかった人や地区に対して、広報やイベントを通じて重ねて発信するなど、継続的な町民への働きかけを通じて意識の醸成を図る。

また、町民の意識の醸成と並行して、「利用してもらいやすい公共交通網」の構築につなげる利便性向上の取り組みも求められる。

⇒ 課題⑥ 来訪者にも使いやすい公共交通網

土地勘のない来訪者であっても町内を公共交通で移動できる様々な支援ツールの構築や実際の利便性向上につなげる。